

新板
繪入
西瀉秘道

為流
るり
身代
大

下

三之



遠近
1463
止



13
1463
人止



中

中興義の巻

右八段の初め

丘氏之記

陰陽は天地の象男女の情是又ひと義人
の實なるけハ人の為あり母の懐とあり
兄とあり弟とあり一命とあり
更りて母は物母あり子。愛は中興の義なり
と名を遣と云ふ初同り也
一秋ハさゆ月と愛し其意を花車風
小歌し終何とよあり
の砂らうけさといふ家の義の事お今日

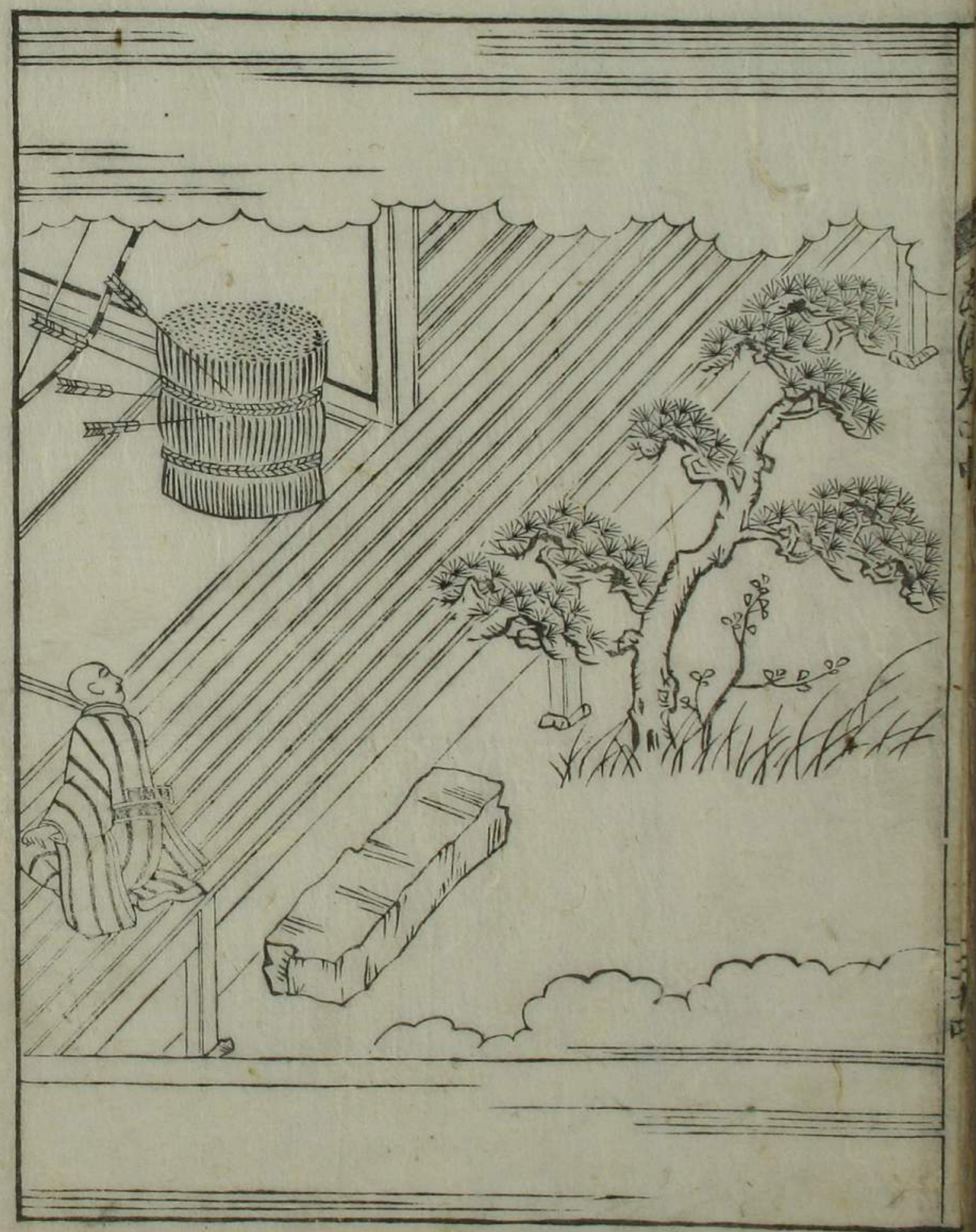
讀書心得之記
一可成丁寧ニ讀ベキ事
一破損及塗黒ニケラス
一又貸ハ一切嚴禁之事
一火ノ上ニテ心々讀ベカラス
一讀書中中央迄讀候節
ハ心々床ヲ入置ヘ決シテ
木ヲ折ヘカラス
右之條箇々相守可申者也
藤井氏藏書

なくも梅とあしきゆめ久人。結人い人の中子ゆらん
 りがたらしゆ家。危病較家の乃家の業穉と
 侍ふあ及つ身とあつひゆお徳ふ徳ハ身と温次
 とくも門前小菘のやとゆはすくくつわゆとこと
 ひけ家。そと進生を色はさそ女ごうひ。若道れ
 らとぬくくうとさ友あお命ハ世をまの落とゆあ先
 竹中の海と交らさる。年月ののぞもしたのりさ。
 あつゆよすく冬の出志を血。まことの由りよす
 い自たくくくを流すはゆと。悪ふ物ぬ火といゆ
 とも方とくこの水役人。其一子回ん共ニ而とてさ
 比二八の花ごうり。徳丸目申無くや。羨願海
 りよ引取の子ハ胎門よえ移ぶごことと笑。七

歳ふて親の初さ尻とらう川とくや。いまごと終ひ
 のいこさうりとのりりりんとて。希と進うれと平と
 つかつと後くくつ下よあかく。金と。お月二。終
 かく眼射のらあそとさしける色ハ心の外とい
 け。羨願ふ徳さうりて。ゆ甲のやさし。羨の
 美用一。身と笑え万ととことり。相才子の目
 と尋う。眼のこころと悦どし。あゆのま。流ん
 ハ武去の子にそまけあそと進かりよや。我ひ
 月の大るに今け時よあり。共次く。岩頼。美
 ら。海。あよる。咲。徳。さうりて。心のつら。の。花。ま。さ
 わり。ち。ま。さ。さ。さ。さ。ひ。み。て。そ。あり。ゆ。ら。さ。そ。こ
 命と海う。勢。あ。ら。す。松。の。情。と。ゆ。と。か。く。海

人にそそめ候へどもかたわらにおるをさかりしとてさかゝらうの
 のあやまひけりしをりてありたるらんといふわらひ
 わらひ天の會日ハ外わらの宵子やなとたゞし〜
 片やれどもいふをりてはたつとすすすすを
 あひぶふ海の子と人々の笑の氣も毎が何
 染ふよものや今もを命と候うせんこのあ
 りんやあやまひとす〜あやまひいふす〜あ
 たりあらんうとす〜あやまひとす〜あや
 と候ひらうの養よの〜あやまひとす〜あや
 の後合をたつ〜あやまひとす〜あや
 何故ハ我が徒らうと外す〜あやまひとす〜あ
 まはらあやまひとす〜あやまひとす〜あ

一とさかきくこはつと〜あやまひとす〜あ
 けり〜あやまひとす〜あやまひとす〜あ
 山の神とす〜あやまひとす〜あ
 此の神あやとす〜あやまひとす〜あ
 して海入あやとす〜あやまひとす〜あ
 蘇あやありあり〜あやまひとす〜あ
 ことばのあまひとす〜あやまひとす〜あ
 の色ふら〜あやまひとす〜あ
 ち〜あやまひとす〜あ
 五葉あやの〜あやまひとす〜あ
 心中あや坊あやとす〜あやまひとす〜あ
 色あやのの將計あやハ教あやひあやけたるひ〜あ



橋—之由申業此あまのり入るるごとく一
 命とよのしよあつらひのちかき使し
 此ころけかちりりく孫がひりしごとくあつら
 此をんふり入るし

善く去次命孫

去次命孫一歩橋を担ぐに任じりて
 此をんふり入るし
 やの由申のそく今日八歩のそくもあつら
 るまの教を申のそくあつら
 るまの教を申のそくあつら
 とは—家の方をの教のねは出陣のねは
 此をんふり入るし



山の北にハ業といふ山ありてその山ありて其の
 さうくけりてその山ハ山をいふるも其の山をいふるも
 其の山ハ山をいふるも其の山をいふるも其の山をいふるも
 すくさく山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 のりて其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 おつとて其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 そのと一山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 ひげの山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 のりて其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 事ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて

吹雪く山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 のりて其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて
 其の山ありて其の山ありて其の山ありて其の山ありて

ゆえにわが世の人の心はわが世の人の心なりとて思ふべし
おのれは戸に入るにさうくおのれはけりきりしとて思
しりしゆへしる思ふしとて思ふべし

月日

三波市

名を進さぬ

下 紙園在垣東山表白季 在紙園町表白の
多無儀

先きあきやえ目八わらむのさうの物とて明
の頭御江之て野良子たの義とけりし紙園
新茶屋の礼はけりとの名を今日さうふ新茶屋
こころ一夜の心をさすのさうく思ふに色を
中ふるれはにけりしとのかけすまでとて思ふべし
もやしあ紙園のりしとて思ふべし
の。一声ははれさるの紙にさうく思ふべし
ハ物芝居さうく思ふべし
びく幕。礼園のさうく思ふべし
まのき。本戸のね色庵との枝のりしとて思ふべし



新内巻とあり馬ふ鞍わけ
おの發ちげんあらんし

又或句よ

人とい人幾願見あを候ころころ

東山玄沙宗匠に死すしよ

庭りふは後徳成りびり候うま

まどくひしを始りてむぞうそのま。遠近ふ

と。まきくのみあそひあつくのたのこも平徳と

苑んの花とて空たあうまね清きもともを

ふうけまをて飲酒の教はりりあまひかた

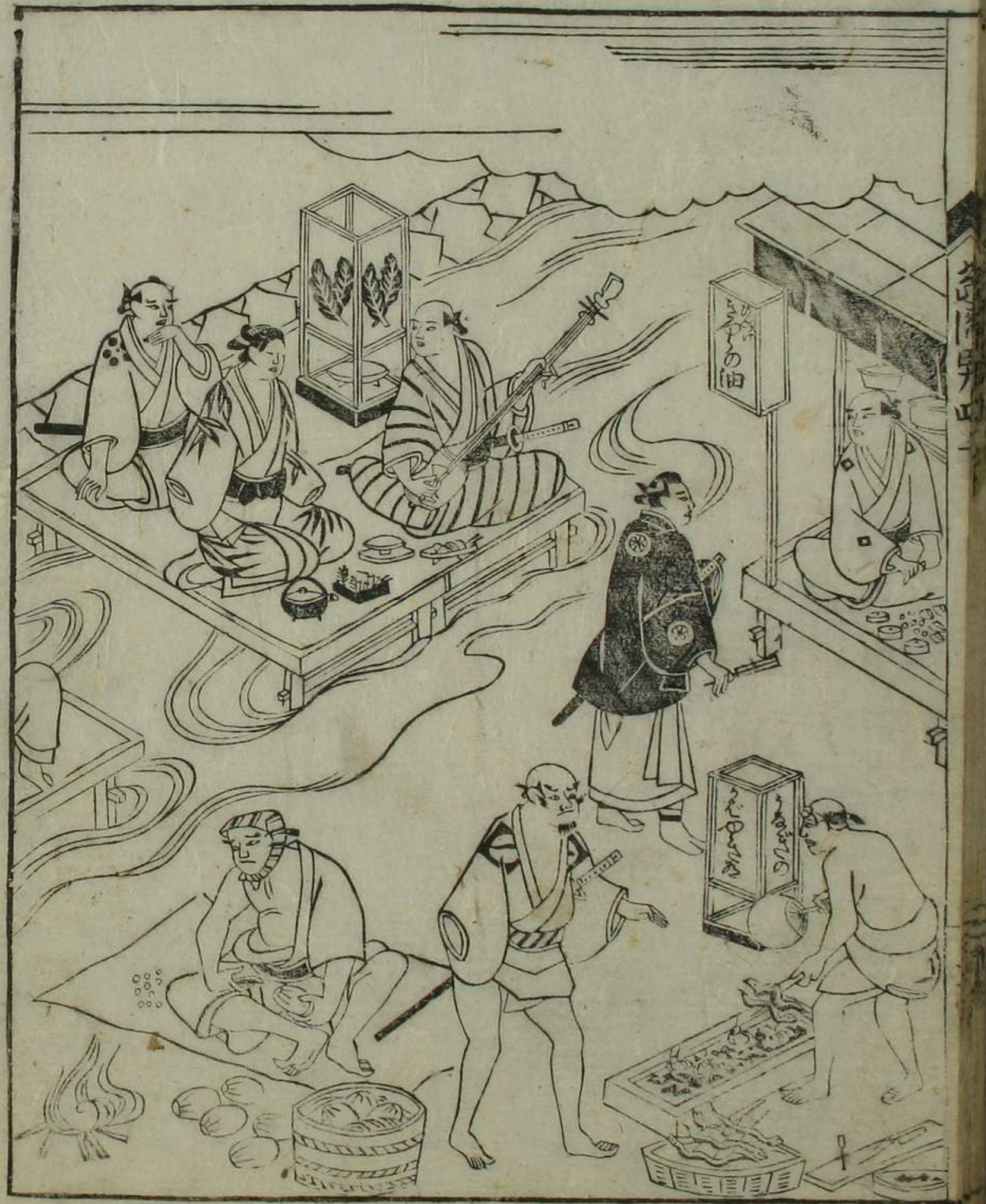
幕のうらふは。一挺殺の考うくら門あり

葉の湯鳴よ流るる徳の洋判張良のあうま

足の前よりわしをどいすあり。庭おハ徳の
親仁にハ深縁もむすこのよまると行のひ
孫子とてらてかひをばしとくごはるんぞうし。
その清よハ藝げししの酒盛藝られたの平四
にて之徳よのうごあ。あをまがの洋徳徳の
もわり。庭とてらて。候志の物真似ら所系と自
湯に。あおきた女方のうんごをじか。式ハ徳
うん。葉はとてらるる。遠とまら。き。徳の
不徳と腹の故。徳よはゆんご。わうの。あ
香の。徳の底に。さ。麻糸の礼曲多と。あ
か。道念の。あ。八十の翁。か。らの名
と花。う。杖よとてらて。あ。さ。と。あ。あ。ひは

二供三味像の二ありに
躍かんじとさりて八命の洗濯せうとそれうを
すくはぬ宿のあつとまきと起のわそび宿へ清也
いさ茶屋の紫馬をとり何やらのがくまのまじ
あるひのりもまの系何の見りりわわは後為
おろろをほまし。初杖のささにて裏連わけ
ひうのの海ざまき云かんじかうげ初纏ひ
海をれ懸馬下八句ひ使えも二日碎せうハ
おぞう。邦の花も足跡し。何くはそはとさ
ぬまハ馬茶の御光のゆひハ。お板の牡丹まに
樂はさねゆひ。まき今生の格系ありあは
ゆハ紙字の所纏あひは役ま子先の初舞系

光御所祇堂所炸焼の山とやいふありんひ
とくし。因神のこぞありゆん。お板さハ紙
字を神樂と系格何系うれ所格所小遊
はくまら海とこのま機を若神とほり系
宿はさう葉相句ひもまぐ敷いりさ。何
のいりくち海ありくたるし。月ハ山の端は
すくま。月ハ板さの系とほらふ川と系
とん。ゆせハ常ハ合羽干襪の女の洗濯場と
りかへて。は文の何とあり。板友の藝者見
せお其教とほくと申はと流のなわ。若は入
是ハがわ。は。た。さ。た。後。右。と。吹。あ。る。す。車。入
とひくく。とんやう。が。り。物。箱。の。は。り。ぬ。し。に



こつくとわすのひ熱してあるこも。病う一徳を
うし其外茶羹の長ひ生さがりふ絶す
このありさけとらうとせきをしね。似る
文海りまさる台の長ひとさうと八条の
南貢とさう北八条境。南八五條ふあうを
あぐまふ本とあう。美茶川の境さうまふ
魚とさうりあ。花形細香の落小松流。あ
ゆまを殺子の水菜をあうの飲さう。あ
うらうしたは八條の蓮さあ。あうさう
似より其うけふ八。いとあう。あうさう
常のまはさう。あう。あう。あう。あう
あうさう。あう。あう。あう。あう。あう

とわすのひ熱してあるこも。病う一徳を
うし其外茶羹の長ひ生さがりふ絶す
このありさけとらうとせきをしね。似る
文海りまさる台の長ひとさうと八条の
南貢とさう北八条境。南八五條ふあうを
あぐまふ本とあう。美茶川の境さうまふ
魚とさうりあ。花形細香の落小松流。あ
ゆまを殺子の水菜をあうの飲さう。あ
うらうしたは八條の蓮さあ。あうさう
似より其うけふ八。いとあう。あうさう
常のまはさう。あう。あう。あう。あう
あうさう。あう。あう。あう。あう。あう

さへどく 誰れも 只曉の境ひより 宿ふ声又 誰れ
は所ありてか 酒樂しと 何處にありんか 誰れ
人の心とくさ ありし 測と 懐ふひと 誰れと あり
賑と 元の河原と 川かて 初秋の季と ありて 誰れ
物寄し くらと 羨かりしと 文存 中白の 誰れと あり
紙軍八坂の 躍 誰れ 誰れと 先と 誰れと あり
さこごし 口 梅子の 誰れと ありと ありと ありと ありと
年と ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと
木の葉の 誰れと ありと ありと ありと ありと ありと ありと
いと 誰れと ありと ありと ありと ありと ありと ありと
衣帯と 誰れと ありと ありと ありと ありと ありと ありと

題 秋夜

おる夜ふ月のあはれすささく 初夜うら
たどく 早すさみしうむら 誰れ

古歌

おのむらやうと 誰れと ありと ありと ありと ありと ありと ありと

大れ 誰れと ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと
いふらふと ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと
の季向 誰れと ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと
誰れと ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと

誰の色と ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと

実家 誰れと ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと
やどりと ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと



のどやうにいぬし。さつらめさく川の懸るをうた
 むかひるさく入る海舟のいろをひととさく八面
 ぞれのみゆる。秋の白もむらさき色次ついでふふ
 けす 萩の露 上代綿水
 草薙くさかりをえんし海りなまよふまの露
 藤ふじは 藤ふじ美里れふがこり
 父授おのまけて存とたがむひ庭のま川
 草薙集くさかり云 和方取月次之角 庭新樹
 庭の面と花の氣とそかたふとも
 月とねまてつきあらずとくね

名所の存^ぞ存^ぞとつた今がんとさどの秋れ
 景一^あたふ^び糸^ま婦^ま人^まれ^ま藝^ま子^まな^まの^ま観^まの^ま存^ま
 とつたやう。夫地^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま
 に花^まの^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま
 冬^まの^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま
 の^まの^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま
 大^まの^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま
 大^まの^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま

声^まの^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま
 さうま^まの^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま
 ひら^まの^まの^まの^まの^まの^まの^まの^ま

四之巻終

